



平成22年度水道技術者ブロック別研修会（札幌市：6月1日～2日、郡山市：6月3日～4日、日本水道協会本部：6月8日～9日、福井市：6月10日～11日、京都市：6月15日～16日、岡山市：6月17日～18日、熊本市：6月24日～25日）

水道の維持管理に万全を期することを目的に、全国の水道関係技術者604名の参加を得て「水道概論」、「水道維持管理」、「水質管理」、特別講演「水道施設におけるエネルギー対策の実際」について研修を実施した。

第3回^{いのち}生命の水道・ニッポン運営委員会（6月2日）

議題①「平成21年度報告書（第一次）（案）について」は、事務局から報告書（案）の概要を説明した後、活発な意見交換が行われた。なお、今回の報告書（案）は、昨年12月に開催された第2回運営委員会です承された広域化及び公民連携推進のロードマップのステップⅠに関する報告である。議題②「平成22年度検討事項について」は、ステップⅡの検討事項に相当するものであり、審議の結果、了承された。

平成22年度水道事業事務研修会（経営部門、Aコース）（6月8日～11日）

正会員及び賛助会員の事務職員（水道歴概ね3年未満）の方々65名の方々の参加を得て、「水道概論」、「水道経営」、「予算及び決算・演習」、「水道料金・演習」、「経営分析・演習」、「水道事業における公費負担のあり方」、「水道事業における消費税及び地方消費税の会計処理」について、経営の実務を中心とした研修会を実施した。

第888回会誌編集委員会（6月16日）

本誌9月号の編集方針、投稿原稿審査並びに水道協会雑誌の編集企画について審議した。



平成22年度水道事業事務研修会（労務部門）（6月16日～18日）

正会員の事務職員の方々37名の参加を得て、「水道事業の現状と課題」、「最近の労働判例」、「地方公務員と公務員の責務」、「管理・監督者のあり方」、「地方公営企業の労使関係」、「地方公営企業職員の労務管理」、「人事制度と再任用」について、主に労務の実務を中心とした研修会を実施した。

第5回 ISO/TC224上水道国内対策委員会（6月21日）

委員紹介、本委員会の経過報告等を行った後、議事に入った。

最初に副委員長を選出を行い、東京都水道局酒井給水部長が選出され、了承された。

次に、WG5（規格の実行等検討グループ）メンバーから、3月に開催されたブエノスアイレス会議の議事内容を中心に報告があった。併せて、WG6（アセットマネジメント）



及びWG7（危機管理）メンバーからは、それぞれ作成しているガイドライン（案）の現状について報告があった。

次に、ISO24500シリーズのJIS原案を作成するため、ISO24500シリーズJIS原案作成委員会を本委員会の小委員会として設置することが承認された。

平成22年度漏水防止講座（第1回：6月23日～25日）

水道事業及び賛助会員の漏水防止に従事する技術職員の方々61名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターにおいて研修会を実施した。第1日目及び第2日目に「漏水防止概論」、「漏水防止の現状と課題、これからの漏水防止」、「漏水防止作業」、「漏水探査技術」について講義があり、第3日目には、漏水防止関連機器を使つての現地研修を行った。

第47回水道GLP認定委員会（6月29日）

水道GLP認定について、新規検査機関として下関市上下水道局（申請番号：JWWA-GLP063）、更新検査機関として株式会社東海分析化学研究所（認定番号：JWWA-GLP10、6月27日付）がそれぞれ審議され決定された。

第152回 水質試験方法等調査専門委員会（6月30日）

委員長に武蔵野大学の安藤正典委員、副委員長に国立医薬品食品衛生研究所の西村哲治委員の確認を行った。また、無機物部会長に埼玉県企業局の寺中郁夫委員（副部会長：川崎市上下水道局の小平哲広委員）、有機物部会長に大阪市水道局の林広宣委員、微生物・生物部

会長に神奈川県企業庁の北村壽朗委員（副
部会長：神戸市水道局の小田琢也委員）を
選出した。続いて、水質検査に関する課題
として、六価クロムについての検査方法の
検討、ハロ酢酸の検査で使用している溶媒、
水銀の検査で使用する試薬、嫌気性芽胞菌
の検査で使用する培地の取扱い等について
の報告があり、これらについて今後検討す
ることが確認された。



第227回 衛生常設調査委員会（7月2日）

委員長に名古屋市上下水道局の伊佐治知
明委員、副委員長に東京都水道局の北澤弘
美委員及び大阪市水道局の寺嶋勝彦委員を
選出した。次に、専門委員会の設置につい
て審議を行い、国が設置している「水質検
査の信頼性確保に関する取組検討会」への
対応として「水質検査精度に関する調査専
門委員会」（略称：検査セイド提案チーム）



の設置、及び水道用ソフトシール仕切弁及び銅合金系の材料に係る日本水道協会規格の改正
に向けて「水道用資機材等の衛生性に関する調査専門委員会」の設置について了承された。
上水試験方法改訂版については、今年度上半期中に発行できるよう記載内容の最終チェック
を進めていくことを確認した。また、水質に関する情報として、トリクロロエチレン等の水
道原水からの検出状況等の報告があった。

平成22年度水道事業事務研修会（経営部門、Bコース）（7月5日～9日）

正会員及び賛助会員の事務職員（水道歴概ね3年以上）の方々59名の参加を得て、「水道
概論」、「水道経営」、「予算及び決算・演習」、「水道料金・演習」、「経営分析・演習」、「水道
事業における公費負担のあり方」、「水道事業における消費税及び地方消費税の会計処理」に
ついて、経営の実務を中心とした研修会を実施した。

また、研修会最終日にグループ別のディスカッションが行われ、活発な情報交換が行われ
た。

平成22年度浄水場等設備技術実務研修会（第2回 7月6日～9日）

浄水場・給水所等の運転管理に携わる技術系職員の方々15名の参加を得て、東京都水道局研修・開発センターの訓練用設備を利用して、実際にポンプの分解組立等、機器類の運転・操作及び浄水処理について実習するとともに設備機器の保守・管理の実務について、研修を実施した。

平成22年度水道基礎講座（大阪会場）（7月7日～9日）

水道事業体、賛助会員の新規採用者及びこれに準ずるの方々99名の参加を得て、「水道概論」、「水道経営」、「水道システム概論Ⅰ～Ⅵ」について研修を実施した。

第152回水道統計編纂専門委員会（7月9日）

「水道統計の経年分析（平成20年度）」について上程し、各委員より担当箇所についての説明があり、審議の後、原案のとおり了承された。



第644回抄録委員会（7月9日）

本誌10月号、11月号に掲載する外国文献の抄録内容及び海外文献目録の和文題名について審議した。

第64回中小規模水道問題協議会（7月12日）

最初に議題として副座長の選任を行い、交野市の星野水道局長を選任した。

その後、①赤水対策について、②水道配水管工事等の指名競争入札における指名業者選定基準、③国庫補助金に係る消費税相当額の取扱について、④職員減員に伴う施設の適正管理について、⑤防災対策について、⑥計画（予定）外の給水申込み、⑦道路管理者が行う道路改良工事に伴う配水管の切り回し対応について、それぞれ情報交換を行った。



水道協会雑誌平成22年7月号掲載記事の訂正

本誌平成22年7月号P.108に掲載しました「公表」水道水質検査優良試験所規範（水道GLP）の認定の更新記事に一部誤りがございました。ここに深くお詫びし、訂正申し上げます。

認定検査機関名：社団法人青森県薬剤師会衛生検査センター

認定年月日：＜正＞平成22年5月30日

＜誤＞平成22年5月50日

認定検査機関名：枚方市水道局浄水課

認定年月日：＜正＞平成22年5月30日

＜誤＞平成22年5月50日